

そうじの力だより

VOL.242



支援レポート

見た目が変われば気持ちも変わる
小さな会社の大きな変化

大分県大分市の株安東石材店。墓石の販売、加工、施工と霊園運営を行い、本店と併設工場、そして樹木葬霊園を持つ、社員10数名の会社です。

ここで、二年半前から、弊社がお手伝いしての環境整備(整理・整頓・清掃)の取り組みが行われています。

現社長は二代目なのですが、先代は整理・整頓が苦手な人だったので、



【Before】活動開始当初の工場内全景

当初は工場内も在庫も置場もモノが大量に溢れて、足の踏み場もないほどでした。

理想的な作業場に生まれ変わっています。

事務所内も、当初は不要な書類や事務用品がたくさんあり、手狭な感じだったので、初期の段階で、徹底的に捨てたことで、圧迫感のないオフィスになりました。

現在は、女性陣を中心に、モノの位置化に取り組みしています。

工場には、長らく使われていない機械がいっぱいあり、これらを処分し、機械が収まっていた建屋も解体撤去しました。あちこちに乱雑に積まれていた石材在庫も精査して、多くのものを廃棄処分しました。

おかげで、広いスペースが生まれ、障害物がなくなりましたので、安全性や作業性が格段に向上しました。

現在は、解体した建屋の跡地に、資材や道具の置場を増築。工場の床面は、以前はテコボコや段差があり、使いづらく危なかったのですが、自分たちで



【After】2025年8月現在の工場内全景



「計り」と書かれた表示と標識で定位置化

「今、日入った新人でも、どこに何が あるか一目でわかる」ことを指標にして、表示(物に明記)と標識(置場に明記)を徹底しています。

今年に入って特に力を入れてるのが、墓石の建立や解体の現場での環境整備です。

以前は、道具や資材を散らかしっぱなしにしていた、お隣のお墓の上に道具を平気で置いたりするなど、乱雑な感じの現場でした。また、ヘルメットもかぶっておらず、安全対策もあまり行われていない状況でした。

まずは、作業する社員さんたちの意識を変えるためにも、クレインやユニボの作業時にヘルメットをかぶることをルール化しました。当初は渋る人もいたのですが、今では外注業者さんも含めて、全員がヘルメットを着用してきています。



ヘルメットをかぶってのクレーン作業

道具も、あちこちに散らかさず、シートを敷いて一か所にまとめて置くようになったので、見た目の印象もよくなりました。ゴミ袋も、組み立て式で自立するゴミ袋スタンドに入れることで、ゴミの捨てやすさと見た目の美しさを両立させています。

ユニックやトラックを道路わきに駐車する際には、必ず輪留めをして、車

の前後に、歩行者や通過する車両に注意喚起するためのパイロンを置くようにしています。



ユニック駐車時には輪留めとパイロンを設置

現場で使う道具にも、すべてネームを入れて、大切に使う意識づけを行っています。

これらは、大手の会社では当たり前のことかもしれませんが、小さな会社の現場ではなかなか徹底されていないのが現実です。

こうした基本的なルールを徹底することで、安全性が高まるのはもちろんのこと、仕事のクオリティも上がってきているように思います。

感慨深いのは、当初、「ヘルメットをかぶりましょう」と呼びかけたときに、「それなら僕は辞めます」と言っていた社員も、現在では積極的に環境整備に取り組みしてくれていて、いろいろな提案をしてきている、ということ。

見た目が変わると人の気持ちも変わり、それにつれてさらに環境もよくなっていく、という好循環が回り始めています。(小早)

企業・団体の研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。



X(旧ツイッター)で、「環境整備一日一言」を毎日更新しています。ぜひフォローしてみてください！

今月の読書から

『アメーバ経営』稲盛和夫著

～経営者感覚を持たせるための小規模独立採算制組織～



言わずと知れた京セラやKDDIの創業者である故稲盛和夫氏のベストセラー。アメーバとは、各リーダーが経営者感覚で運営に当たれるよう、細分化した独立採算制の小組織のこと。

その実践方法については割愛しますが、ここでは、どんな組織にも通じる「京セラ会計原則の実践」について、印象に残った部分を引用してご紹介します。

《一対一対応の原則》モノやお金が動けば、その結果を示す伝票が一対一対応で添付され、確実に処理されなければならない。これは一見してあたりまえのことであるが、徹底することは決して容易ではない。たとえば、一般の会社では、日常の営業活動のなかで、商品は先に顧客に届けられたが、伝票は後日発行されるといったケースが見受けられる。担当者は「あとで伝票を発行するから」と

いう軽い気持ちでやったとしても、忙しさのあまり、いつのまにか忘れてしまい、結果的に代金が回収できなくなるといった事態を招くことがある。

《ダブルチェックの原則》人間には、魔が差したとしか言いようのない過ちを犯すことがある。たとえば、今月の実績がどうしても厳しいので、つい数字を操作してしまうといったことが起こりうる。このような人間の持つ弱さから従業員を守っていくために、つねに複数の人間が数字をダブルチェックして不正や誤りを防ぐ管理システムを設けている。

《完璧主義の原則》京セラでは、受注、売上、生産や時間当たりなどの経営目標に関しても「100%には達しなかったが、99%達成できたので、それでよしとしてくれ」というような考え方を認めていない。製造、営業の目標に対して完璧な遂行を要求している。完璧主義を全うすることは困難なことであるが、それでも完璧にしようという強い意志があるからこそ、ミスもなくなり、目標を達成することができるのである。

《筋肉質経営の原則》会社は筋肉質でなければならない。筋肉質とは、ムダな贅肉が一切ない、引き締まった体質であることを意味する。すなわち、利益を生まない在庫や設備といった余分な資産を一切持たないことである。なかでも、不良在庫が発生しないよう、長期滞留在庫を厳しく管理している。売れないモノを長期にわたり資産計上して、見かけ上の利益を計上するのではなく、会社の実態に即して、売れないモノは早く処理して、資産をスリム化するようにしている。

《採算向上の原則》企業は永続的に発展していかなければならない。従業員の物心両面の幸福を追求するためには、採算を向上させ、手元のキャッシュを増やし、財務体質を強化していくことが前提となる。(中略)そのために実践すべき経営の原理原則は、実は非常にシンプルなものである。「売上を最大に、経費を最小にする」ことに徹すればよい。

経営の要諦は、シンプルでありながら、徹底するのは難しいものです。トップの断固とした覚悟が必要ですね。(小早)

編集後記

ソウルフード

島根県の某市に、半分つぶれかけたような外観の中華食堂があります。

地元の人が、「この店はわが市のソウルフードなんですよ」と教えてくれたので、怖いもの見たさで勇気を出して入ってみました。

意外にも、多くの客で賑わっており、炒飯も美味！

でも、雨漏りがして、壁紙はめくれ上がり、ソファも所々破れています。せめてもうちょっと、環境整備に気を遣ってほしいなあ…。(小早)



飛鳥のつばやき

ノスタルジア

今年の夏は、思いがけないところで子連れ旧友に会う機会に恵まれた帰省となりました。

会う人会う人、子供たちがまるで小学生の頃の本人に瓜二つで、「タイムスリップしてる?!」と笑ってしまうほど。

子供が、自分が遊んだ場所で同じように遊んでいるのを見ると、忘れていたいろいろな記憶が甦ってきます。

こうして次の世代へバトンが渡されて行くのかと、じんわり感じ入ったお盆でした。(大概)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨くコンサルティング

弊社は「そうじ＝整理・整頓・清掃」を通じた企業風土改革を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場巡回を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を

原則としますが、企業規模や現場の状況、ご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。

また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)